

新 あさけのいにしへ

No. 1

三重県埋蔵文化財センター

〒515-0325

三重県多気郡明和町竹川 503

TEL 0596-52-1732 FAX 0596-52-7035

http://www.pref.mie.jp/MAIBUN/HP/

四日市整理所

〒512-8064

三重県四日市市伊坂町 126-1

TEL 059-363-3195 FAX 059-363-3196

2010年1月



伊坂城跡・伊坂遺跡遠景（南上空から）

オッホン！
わしがモグ博士
じゃ。土の中の
ことなら何でも知
っておるんじゃ！



はじめに

鈴鹿山脈に源を発し、伊勢湾に注ぎゆく朝明川。この川の流域は、かつて朝明郡とよばれた地域です。川面に映る人々の、姿や営みは変われども、川は絶えることなく流れ続け、人々の暮らしを見守り、育んできました。この朝明の地に暮らした人々の「あしあと」は、今もなお、朝明川のほとりに数多く残されています。

増大する交通需要に対応するため、新名神高速道路がこの朝明の地を通ることとなりました。工事に先立ち、三重県埋蔵文化財センターは、平成9年度から発掘調査を行い、これら貴重な歴史遺産を記録し保存してきました。このたび、平成13年度以降、いったん中断していた工事が再開され、それに伴い発掘調査も、昨年度から再開されました。今年度は、伊坂城跡と伊坂遺跡（どちらも四日市市伊坂町所在）の発掘調査が行われました。

調査委託 中日本高速道路株式会社 名古屋支社 四日市工事事務所

調査主体 三重県教育委員会

調査担当 三重県埋蔵文化財センター

伊坂城跡 今年度調査面積：4,450㎡ 調査期間：平成21年7月29日～平成22年1月8日（予定）

伊坂遺跡 今年度調査面積：2,870㎡ 調査期間：平成21年6月8日～12月9日



周辺の主な遺跡

いさかじょう	いさか	にしがひろ	うながみ	やまむら	ひがしひらこ
1 伊坂城跡	2 伊坂遺跡	3 西ヶ広遺跡	4 菟上遺跡	5 山村遺跡	6 東平古遺跡
こがねづか	こがねづかおろすぼくろ	しろのたに	ひろながじょう	ひろながこふんぐん	ひろながおろすぼくろ
7 金塚遺跡・金塚横穴墓群	8 城ノ谷遺跡	9 広永城跡・広永古墳群・広永横穴墓群・広永遺跡	つじこ	まのた	じょうかりまう
10 辻子遺跡	11 間ノ田遺跡	12 浄ヶ坊1号墳	13 広古墳群	14 八幡古墳	



伊坂城跡調査区全景（北上空から撮影）

いさかじょうあと

伊坂城跡 (第3次) 発掘調査

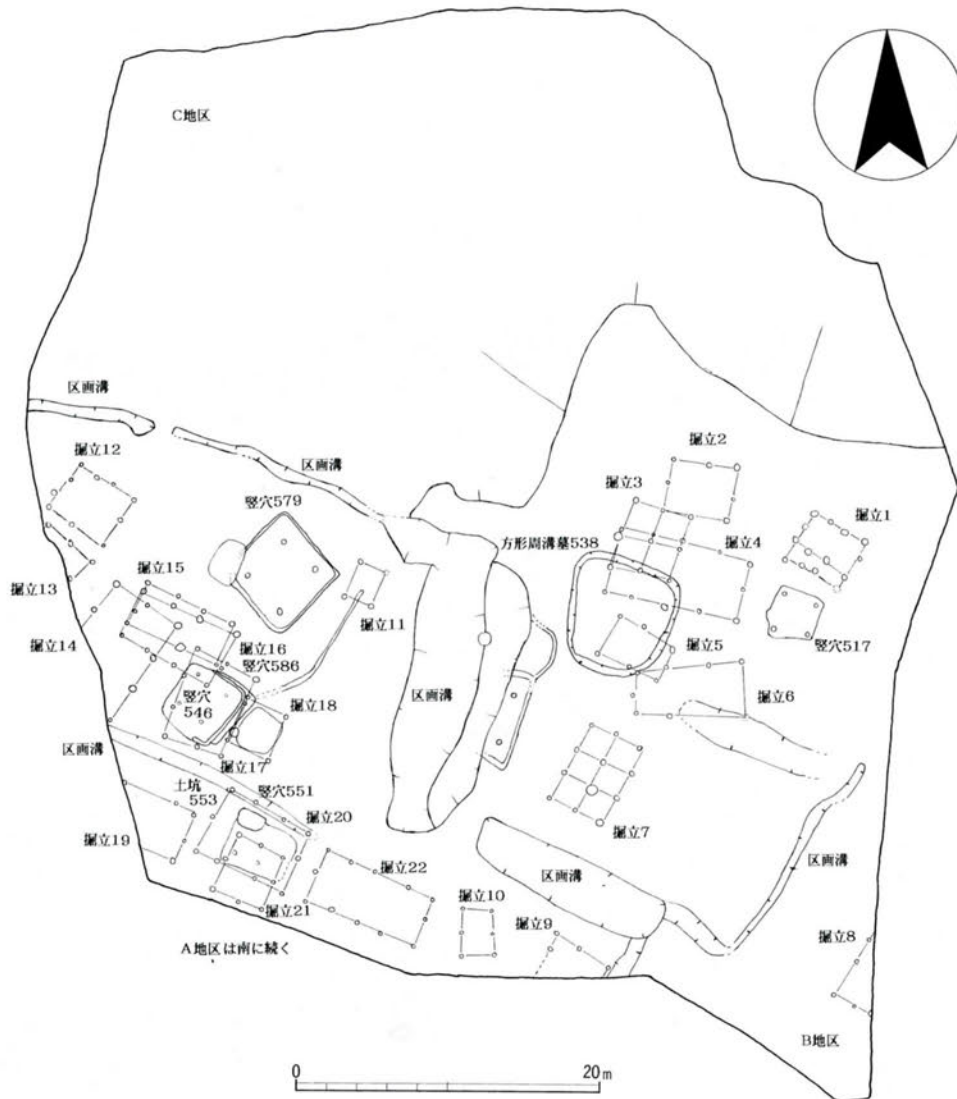
◇伊坂城跡第3次調査の途中経過について

発掘調査はまだ終わっていません。平成21年7月29日から調査を始めました。現時点での伊坂城跡の途中経過についてまとめてみます。

◇みつけた遺構 (人々の生活のあと)

城があったとされる戦国時代(約500年前)の掘立柱建物22棟や区画の溝3条を確認しました。その建物の柱穴からは、当時使われていた土師器羽釜、天目茶碗、挿鉢などの破片が多く出土しました。当時の伊坂城での人々の生活がうかがえるものです。

城がつくられる以前の遺構も確認できました。弥生時代後半(約1,700～1,900年前)の墓「方形周溝墓」と考えられるものが1基ありました。お墓の周りを溝で、一辺約8mの方形に囲んでおり、同じようなものは、伊坂城跡の東側に位置する菟上遺跡や山村遺跡でも確認されています。



伊坂城跡 (第3次) B・C地区遺構略図 (1:500) ※「掘立」は掘立柱建物、「竪穴」は竪穴住居の略

堅穴住居跡も確認することができました。時期の違うものが複数重なっている場所もありました。重なっているため正確な数字といえませんが、全部で6棟以上はあったようです。重なっている住居跡の土からは、古墳時代（約1700年前）から奈良時代（約1300年前）にわたる土器（土師器・須恵器）が多く出土しました。数百年間にわたり、断続的に、堅穴住居が同じ場所で繰り返し建てられていたことがわかりました。

◆みつかった遺物（当時の道具など）

古墳時代（約1700年前）の土師器や須恵器、戦国時代（約500年前）の土師器や陶器などが、今のところ、遺物整理箱（60×40×15 cm）に15箱ほど出土しています。以下に主なものを紹介します。

須恵器長頸壺（奈良時代）は、堅穴住居546から出土しました。土師器より硬い須恵器という種類の焼き物です。割れていますが、本来は長い頸が付いていることから、「長頸壺」と呼ばれます。壺の肩がやや丸く、くぼんだ線が複数入っています。特徴から、愛知県尾張地方で作られた可能性があり、当時の人々の交流の様子がうかがえます。

石臼（戦国時代）は、土坑553から、戦国時代頃の天目茶碗と一緒に出土しました。半分に割れています。直径約30 cm、厚さ約8 cmで、花崗岩でできています。穀物を精白したり、粉にしたりするのに使用しました。表面には、中心から外側に向かって放射状に溝が彫られています。

◆まとめにかえて

現在発掘している調査区は、お城の中心部から約400mほど離れた場所ですが、同じ時代の堀立柱建物や土地を区画する溝を確認できました。また、城より古い時期の遺構が多く確認できたことで、城が造られる以前のこの地区の様子も明らかになってきました。周りにある古墳時代や奈良時代の遺跡との関係についても、今後明らかにしていきたいと思えます。



方形周溝墓（東から撮影）



堅穴住居（北から撮影） ※2棟重なっています



堀立柱建物（北から撮影）



長頸壺（奈良時代）



石臼（戦国時代）

いさかいせき 伊坂遺跡（第5次）発掘調査

伊坂遺跡は、三重県四日市市伊坂町の重地山にある遺跡です。

菟上神社に伝わり、現在、四日市市立博物館に収蔵されている銅鐸は、江戸時代に重地山で発見されたと伝えられています。そのため、重地山に遺跡があることは古くから知られていました。

新名神高速道路が、この重地山を通ることになり、まだ銅鐸が眠っている可能性も考えられることから、発掘調査を行いました。調査は平成11年度から始まり、今年度は第5次調査となります。



伊坂遺跡調査区全景（北西上空から撮影）



伊坂銅鐸（高40.3cm）
『三重県史』より

◇古墳時代の建物跡を発見！

今年度の調査では、竪穴住居3棟、掘立柱建物2棟を確認しました。建物跡の特徴や一緒に出土した土器の特徴などから、古墳時代前期（約1,700年前）の建物跡であると考えられます。以下、主なものを紹介します。

竪穴住居 507 調査区の南東部で確認しました。建物の北側は、後世のなんらかの原因で削られてしまっていて残っていませんでしたが、約7m四方の建物であったと推定できます。建物内部の4つの穴は「支柱穴」とよばれるもので、屋根を支えていた柱の跡です。

また、東隅は床面から30cmほど掘り下げられています。これは、食料などを保存するための穴で、「貯蔵穴」とよばれるものです。

さらに、「壁柱穴」とよばれる壁ぞいに杭が打ち込まれた痕跡も見つかりました。壁板をとめておくためのものと考えられます。壁柱穴が確認できる竪穴住居は数が少ないため、竪穴住居の構造を考える上で貴重な資料といえます。



竪穴住居 507（北から撮影）



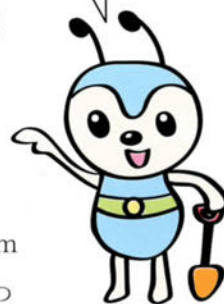
竪穴住居 509（東から撮影）

竪穴住居 509 調査区の南西部

で確認しました。建物の西側は崩れ落ちて残っていませんが、約7m四方の建物であったと推定できます。

主柱穴は3つ確認できました。残りの1つは崖が崩れた際に消滅したものと思われます。竪穴住居 507 と同様に「壁柱穴」も確認されています。

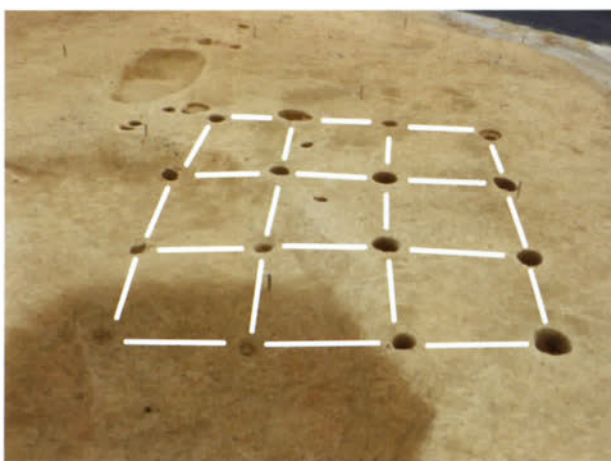
僕は、アーリー。モグ博士の助手だよ。よろしくね！



掘立柱建物 508 調査区の南西部

で確認しました。一辺が5.2mあり、合計16本の柱が4本ずつ正方形に並んでいます。建物内部にも柱が立てられている「総柱」といわれる建て方の建物です。建物跡の特徴などから、おそらく高床式の倉庫のような建物だったと考えられます。

このほか、掘立柱建物は、調査区の北東部で、もう1棟確認されています。



掘立柱建物 508（北から撮影）

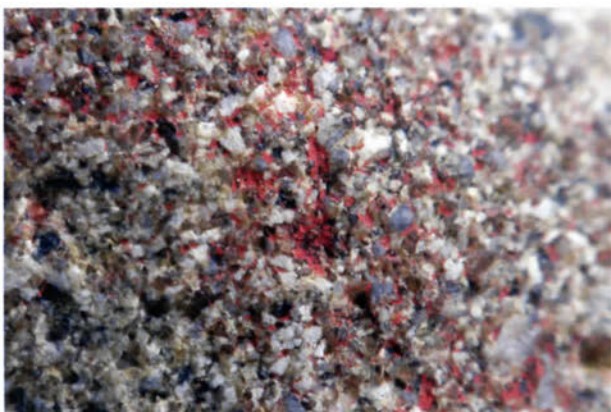
◇古墳時代前期の土器や赤い顔料の付いた石器が出土！



石杵（約20cm × 約6cm × 約5cm）

竪穴住居跡から古墳時代前期の特徴をもつ土器が出土しました。破片がほとんどですが、建物の時期を考える上で重要です。

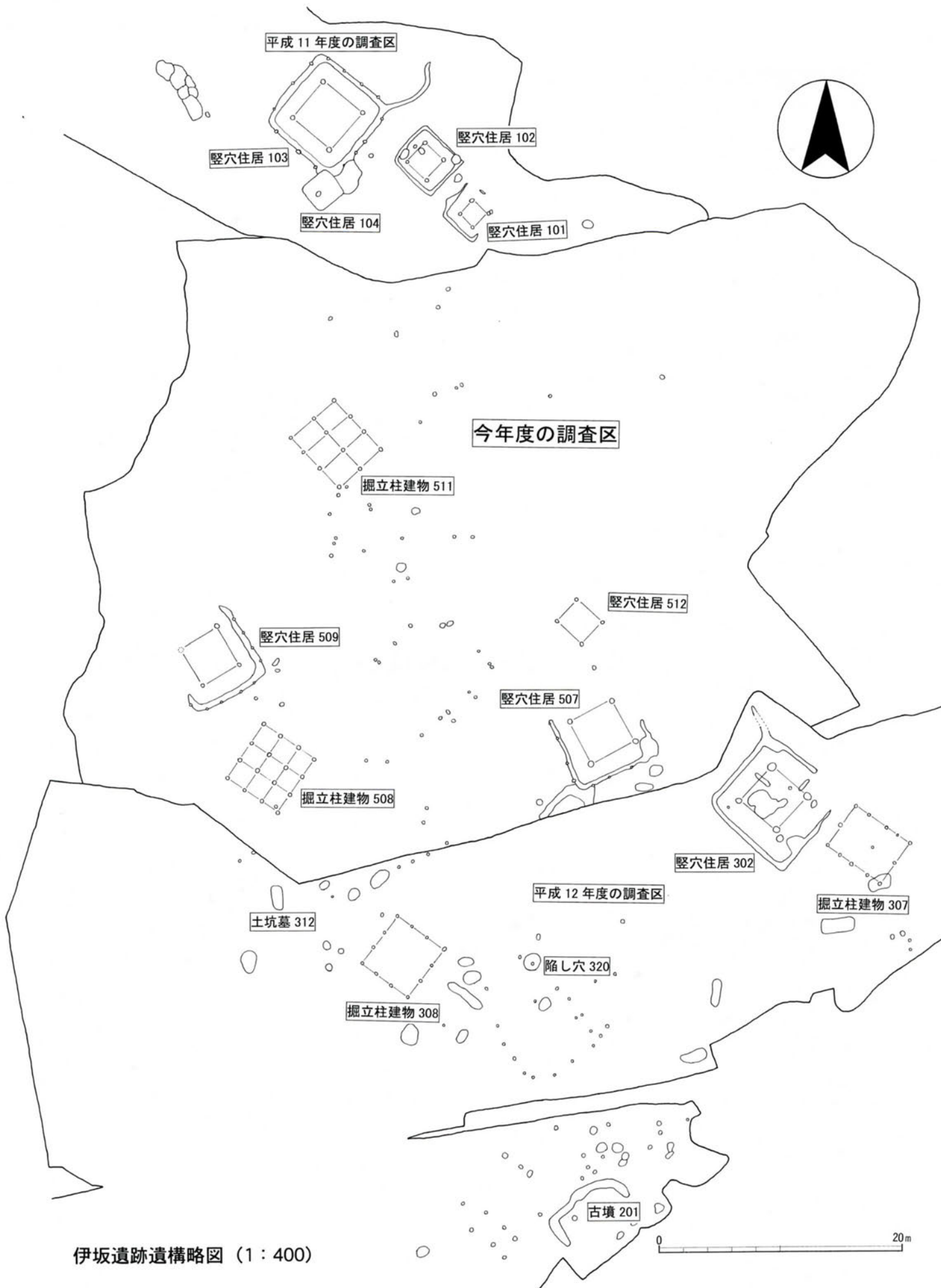
また、竪穴住居 509 から出土した細長い石（石杵）の両端には赤い顔料が付着していました。肉眼での観察から「水銀朱」の可能性がります。



赤色顔料付着部の拡大



竪穴住居 507 から出土した土器



伊坂遺跡遺構略図 (1 : 400)

◇みえてきた伊坂遺跡の歴史

これまでの調査を含めて、みえてきた伊坂遺跡の歴史をまとめます。

まず、伊坂遺跡で最も古い人間の活動の痕跡は、縄文時代（1万3000年前～2500年前）のものと思われる陥し穴です。イノシシなどを得るために掘られたものと思われます。この時代の建物の跡はみつかっていないことから、縄文時代の伊坂遺跡は、人間の住む場所ではなく、ケモノの通り道だったことが分かります。

銅鐸の埋められた弥生時代（約2500年前～約1700年前）になっても、建物の跡はみつかっていません。少数の浅い土坑（大きめの穴）が確認されていますが、土器の破片が数点含まれていただけで、生活の痕跡はみあたりません。伊坂遺跡のすぐ東の丘陵には、菟上遺跡があり、過去の調査で弥生時代の大規模な集落跡がみついています。銅鐸を埋めたのは、菟上遺跡の人々だったのかも知れません。

その後、古墳時代（約1700年前～約1400年前）に入って、ようやくこの地にも集落がつくられました。竪穴住居が8棟、掘立柱建物が3棟確認されています。遺跡の南西部にはお墓がつくられ、竪穴住居では水銀朱の加工なども行われていたようです。伊坂遺跡が最もにぎやかだった時代といえます。しかし、これらの建物の建て替えはせいぜい1回程度と考えられ、遺物も古墳時代前期のものがほとんどであることから、この集落は、比較的短期間しか存続しなかったものとみられます。

その後は、奈良時代（約1300年前）の壺などが数点見つっていますが、建物跡は確認されていません。古墳時代の集落がなくなって以降は、山林か畑のような状態で現代に至ったものと考えられます。



編集後記



『新あさけのいこしへ』楽しんでいただけたかのう。2001年の『あさけのいこしへ』以来の登場で緊張したが、助手のアーリーともども、これからもよろしくじゃ。



よっかいせりしよ 四日市整理所オープン！

平成21年10月1日に「埋蔵文化財センター四日市整理所」が開設されました。新名神高速道路の建設にかかる発掘調査や報告書の作成などを行います。

